

Keep on exploring!

Graduate School of Education **ミドルリーダーセミナー**
(ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course) 通信
NO. 1 2019. 7. 15
山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻(教職大学院)

教職生涯を通じた職能開発! ミドルリーダーの力量形成を支えて!



6月29日「Advanced Course」@やまぐち総合教育支援センター 始動!!!

「先生、今年も来ましたよ。このプログラムも6年目(^.^) 今年は研修主任と生徒会担当と呑み会担当です(^.^)」

山口大学教職大学院と山口県教育委員会が共催して、「教職生涯を通じた職能開発(学び続ける教師)」+「ミドルリーダー養成」+「地域(県内)の教職員研修の活性化」を目指して開催するこのプログラム..。本年度の「第1回研修会」を、6月29日(土)、「やまぐち総合教育支援センター(県内巡回型)」を会場に開催しました。山口・広島県から現職教員34人、教職大学院生(学部卒)12人、講師1人、山口・徳山大学教職員11人の計58人が集い、熱い!アツイ!「Co-fort研修」を行いました。報告します。

① 講義 「山口県教育の現状、課題、教育施策と充実期(中堅)教員への期待」

指導者 山口県教育庁教育政策課教育企画班 班長(主幹) 三木正之さん



「ミドルリーダー養成ですから...一人一人の教職員も広い視野から見なきゃ!...」

第1回はこのテーマが必須です。県の教育施策やプロジェクトの設計をご担当の三木班長さん。国の動き(中教審、教育再生実行会議等)、県の方向(教育振興基本計画、やまぐち維新プラン)から県施策、事業や予算に至るまで、具体的に楽しく教えて下さいました。日々の教育実践を、政策構造や施策体系と関連づけながら捉えるって必要ですね。班長さん、ありがとうございました。

ありがとうございました!(受講者の感想から)

三木班長さんのお話を伺いながら、まさか、あんなにも沢山の部署のご経験があたりだとは思いませんでした。様々な経験があたりだからこそ、様々な角度から見た山口県教育の現状と課題を知ることができ大変勉強になりました。

お話を聞いて感じたことは、まさに三木班長さんのような人材を育てていくということこそ、私たち教員が持たなければいけない視点なのでは、ということです。私自身もそうですが、教員の中には小さい頃から教職を目指していた人も多く、所謂「就職活動」といったような経験をしていないため、様々な業界への関心や一般企業に関する知識が乏しいと感じています。しかし、今ある職業の多くが何十年か後には存在していないと言われる程、日々多種多様な職業が生まれている社会の中で、新しい課題にぶつかろうとも、持っている力を最大限に発揮して、課題を解決していく子どもを育てていかなければならないと日々痛感しています。そのようなことを考えた時、自分の経験の狭さが、子どもたちの成長や将来の希望の幅も狭めてしまうのではないかと心配しています。

来年度で教員10年目を迎えるので、ぜひ、新しいことにいろいろチャレンジしたり、教員の仕事とは直接は関係しそうでないこ



とも積極的に取り組んだりしながら、様々な経験を自分自身で見付けていきたいと思ひます。
 そして、三木班長さんのように、「大変でした。でも楽しかった。勉強させてもらいました。」と笑顔で言えるようになりたいと思ひます。(教員)

義務教育課ではなく、教育政策課から話を聴くことができたことがとても興味深かったです。これまでもその機会があったのかもしれませんが、今回ほど違いを感じることはありませんでした。
 全体のフレームや体系を捉えて、その中で自分自身の役割を自覚すること、自分の行っていること(教育実践)がどこ(政策、施策やPJ等)につながっているのかを自覚することが、これからの教育活動や取組の見通し(方向や進め方等)をもつこと、取組への意欲につながることを改めて理解できたように思ひます。ありがとうございました。(教員)



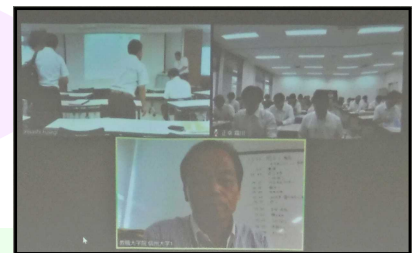
「自分の意見が文科省に届く！」中教審、聞いたことがあるという程度のものでした。(いけないと反省しています!)中教審は選ばれし者が話し、文部科学大臣に意見を述べられるということ、その中教審のメンバーに村岡知事が入られていること、その村岡知事に教育のことをお伝えする人が三木班長だということ。つまり私たちが「Advanced Course」で述べた意見が、三木班長→村岡知事→中教審→文部科学大臣とつながっていくということ。中教審をとても近くに感じました。→「Advanced Course」すごい。(教員)
 ありがとうございます。そこまでのプログラムでもないような....(^_^)

② Zoomによる遠隔講義 「はじめに子どもありき ~誰のための何のための教育か~」



指導者 東京学芸大学 名誉教授 平野 朝久 さん
 山口会場 実践発表者 広島県神石高原町立三和小学校 教諭 飯干 新 さん
 長野会場 実践発表者 長野県松本市立菅野小学校 教諭 池上 航 さん

今回は、新たな試みとして、信州大学教職大学院「教育フォーラム」と連携して、「Zoom」による合同遠隔講義にチャレンジしました。音声接続が上手くいかず、折角の「平野先生のご講義」が聞き取りにくかったのですが、そこは...山口会場代表の飯干 新先生が見事な発表でカバーしてくれました。飯干先生、ありがとうございました! 皆さん、盛大な拍手を!



ありがとうございました!(受講者の感想から)

今回は「Zoom」を活用した他大学との遠隔合同授業という試みであり、テクノロジーの進化によって学びの手法が発展していく様子を目の当たりにしました。
 同時に、テクノロジーの活用で活かされるコンテンツ自体は、「ひと」の動きや「ひと」と「ひと」とのつながりが支えているのではないかということも感じました。一日でテクノロジー進化の利便性と、古典的なライブのよさを共に味わうことができたと思ひます。(教員)

③ ピア・サポート 「私の学校の現状と課題(3次元SWOT分析)」

「研修びらき」も兼ね、「3次元SWOT分析(宿題)」を持ち寄ったワークを行いました。さすがは「ミドルリーダーやその予備軍」の先生たち。自分の学校の現状と課題や「学校教育目標」をふまえた学校(組織)マネジメントの在り方等について盛り上がりしました。

ありがとうございました!(受講者から)

高校の先生方のグループでした。先生方は各学校の現状を見つめ、よく分析されていらっしゃいました。
 高校の現場でも、このような「SWOT分析」ができたらどんなに良いだろうと思ひました。
 高校では研修はほとんどなく、私がこれまでいた学校では、あまり変わろうとしない風潮がありました。世の中も刻一刻と変わっていく中、また様々な子どもたちがいる中で、私たちは今後の教育について、各学校でもっと真剣に、子どもたちの為に進めていかねばならないと感じました。(教員)

